

# 服部真理の

(金沢市・産業医療科)



# 食品公害

## 第21回 公害:3 食品公害

工場などで発生した有害物質が食品を介して多くの住民に健康被害を及ぼす、食品公害の代表的な事件を紹介します。

### 森永ヒ素ミルク事件

一九五五年に、森永乳業徳島工場が缶入り粉ミルク(代用乳)に原乳安定剤として添加した第二燐酸ソーダに不純物として約5%のヒ素化合物が含まれていたため、一万二千人以上の乳児がヒ素中毒になり、百三十人以上の死者が出ました。

原価を抑えるため酸化が進んだ古い原乳を使用し、さらに酸化中和剤に試薬用より不純物が多い安価な工業用を使う二重の「コスト優先、安全軽視」の経営がもたらした事件でした。原因の工業用第二燐酸ソーダは、国鉄(当時)に機関車洗浄剤として納入したところ、ヒ素の混入のため返品されたものが、森永に転売されていた。

発熱、嘔吐、腹部膨満、貧血、肝障害、皮膚の色素沈着などの症状は、当初は奇病扱いされましたが、岡山大学で死者からヒ素が検出され、ヒ素中毒事件と判明しました。その一カ月以上前に、奈良県の開業医が森永ミルクによる食中毒(疑)を保健所に届けましたが、保健所は取り合わず、岡山大学も公式発表までは保健所へ通報しませんでした。マスコミもメーカー名の発表を遅らせたため、その間に患者が急増しました。森永が非を認め謝罪したのは、発生から十五年も経過した一九七〇年でした。

と事件後(一九五五年、山口県宇部市、被害者二百人以上)に起きています。監督行政が場当たり対応に留まり、教訓の共有や抜本的再発防止策を行っていない結果です。

### カネミ油症(ダイオキシン食中毒)事件

一九六八年に、北九州市のカネミ倉庫(株)で作られた食用油「カネミライスオイル」を摂取した一万四千人以上に色素沈着や塩素瘡(クローラクネ、図1)などの皮膚障害、頭痛、手足のしびれ、肝障害などを起こした事件です。

妊娠中に摂取した母親から皮膚に黒い色素が沈着した「コーラベイビー」が生まれ、社会に衝撃を与えました。当初は奇病とされ、その後、配管作業ミスで混入した脱臭のための熱媒体PCB(ポリ塩化ビフェニル)が原因とされましたが、二〇〇二年に国がPCBが加熱されて発生したダイオキシン類(PCDF及びCOPCB)が主因と確認しました。ダイオキシン類はベトナム戦争で米軍が使用した枯れ葉剤に含まれ、兵士やベトナム住民に多くの被害を出したことで有名な発がん・催奇形物質です。

地裁で認められた国の責任が最終的に否定されたことから公的補償制度がなく、カネミ倉庫のみからの賠償に限られたため、認定者は約千九百人(被害者の約一四%)に留まっています(九州朝日放送 <http://www.kbc.co.jp/tv/kanemi/>)。さらに、カネミ倉庫は経営困難を理由に裁判で確定した賠償金五百万円の支払いを凍結

しています。患者には若年死亡が多いとされていますが、正確な疫学調査はされておらず、未認定患者や二世三世を含めた公的救済を求める被害者たちは民主党政権下で議員立法に期待しましたが、鳩山内閣退陣で実現しませんでした。

### 母乳のダイオキシン類汚染

具体的健康被害は不明ですが、日本人の母乳中ダイオキシン類濃度に大きな地域差があります(図2)。廃棄物の焼却や金属精錬施設、自動車排ガスやたばこ煙などが発生源で、他の化学物質との複合汚染も含めて環境問題として議論されています。

### 雪印黄色ブドウ球菌毒素食中毒事件

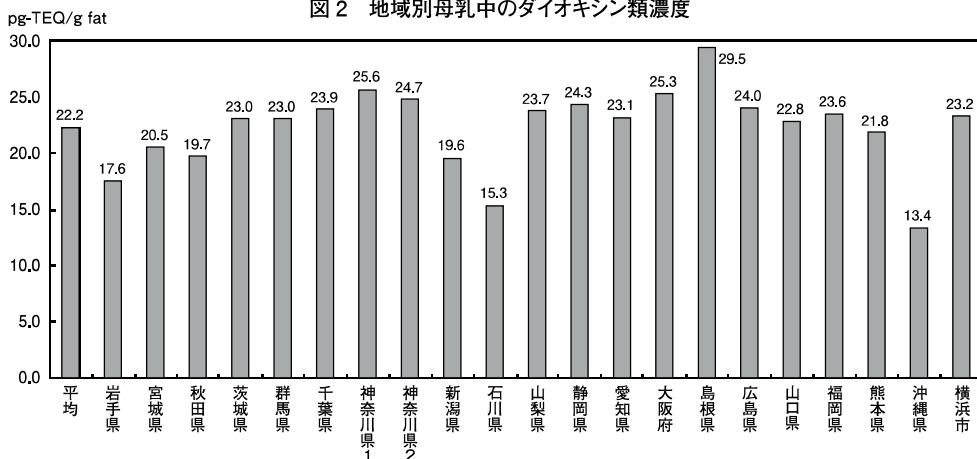
二〇〇〇年六月、近畿地方で雪印の加工乳を飲んだ子ら約一万五千人が、下痢や嘔吐などを起こした事件です。四月一日に製造されたものの生菌が多いため使用できなかった脱脂粉乳を、四月十日に製造した脱脂粉乳に混ぜて生菌数を薄め、出荷しました。製造中に停電し、冷却不足で黄色ブドウ球菌が繁殖してエンテロトキシンA型毒素が発生しました。

雪印は翌二〇〇二年にも牛肉偽装事件(BSE牛肉事件の際、安い輸入牛肉を国産牛肉と偽り国に高い価格で買い取りさせた)を起こして信頼が失墜し、廃業に追い込まれました。

### 明治粉ミルク放射能汚染自主回収事件

埼玉工場で二〇一一年三月十四〜二十日に生産された赤ちゃん用粉ミルク「明治ステップ」などから、放射性セシウムが三十ベクレル/kg以上検出された事件です。当時の暫定基準値二百ベクレル/kgや二〇一二年四月後の新基準値五十ベクレル/kgを下回っているものの、明治が四十万缶を自主回収すると発表しました。飲用者数などの実態は調査されていません。

図2 地域別母乳中のダイオキシン類濃度



(厚生科学研究「母乳中のダイオキシン類に関する調査」より [http://www1.mhlw.go.jp/houdou/1108/h0802-1\\_18.html](http://www1.mhlw.go.jp/houdou/1108/h0802-1_18.html))

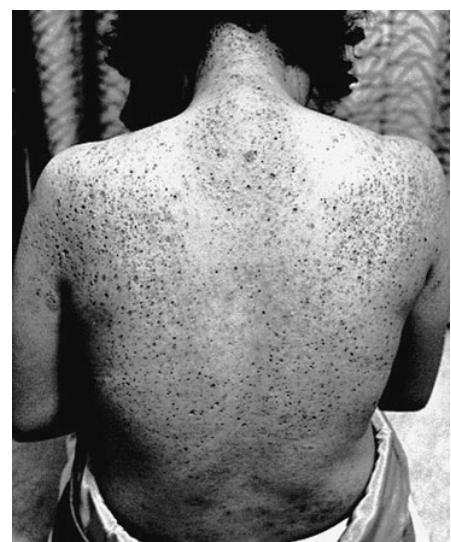


図1 カネミ油症のクローラクネ  
朝日新聞デジタル [http://www.asahicom.jp/digital/pr/article\\_images/TKY201202170356.jpg](http://www.asahicom.jp/digital/pr/article_images/TKY201202170356.jpg) より

福島原発事故後、さまざまな食品放射能汚染の危険性は予測されてきましたが、明治は粉ミルクの汚染をチェックしておらず、NPO「チーム二本松」から指摘された後も、公表や回収が二週間以上遅れ、詳しい情報の公開を拒否する対応が母親たちの反発を招きました。ミルクの乾燥のために使用した大気中の汚染が原因というのが会社の説明ですが、大気の原因であれば、何日の乾燥か、関東地方の他メーカーの製品との差の原因、使用していた空気フィルターの性能やフィルター汚染の程度など、疑問は残ったままです。

当時の埼玉県の大気がそれほど放射能汚染されていたとすると、住民の呼吸性内臓被曝が心配であるという重大な問題も提起されています。これらの疑問を解決するためには、正確な情報開示が必要です。